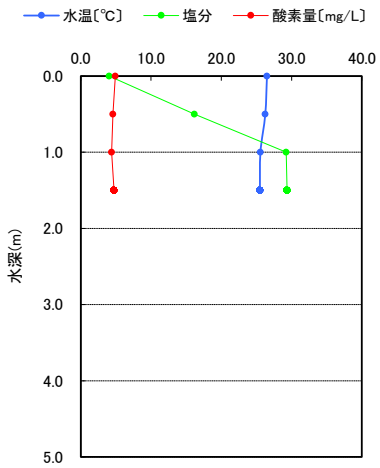
# 令和 8 年度　東京都内湾水生生物調査 8 月底生生物調査速報

## 東京都内湾水生生物調査

| 地点名 | 三枚洲（荒川河口） | 調査年月日 | 令和 8 年 8 月 13 日　9:25～10:37 |
|---|---|---|---|

### ＜調査地点＞




### ＜底質状況、底生生物出現状況＞

※写真のスケール 1 目盛：1mm



荒川と旧江戸川の河口に残された天然の浅場。すぐ横は東京ディズニーリゾートである。水深は 2.7m であり、船上から採泥した。





ふるい上には貝殻片が少量残った。

### 底質の状況



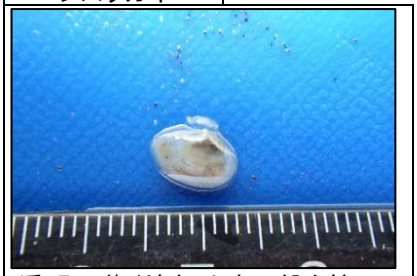
底質はシルト混じりの砂であった。

### サクラガイ



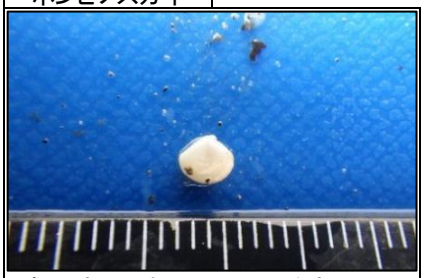
殻長 20mm ほどの桃色の殻が特徴的な二枚貝。内湾の干潟から水深 30m の砂泥底に生息する。近年、各地で個体数が減少傾向にある。

### シズクガイ



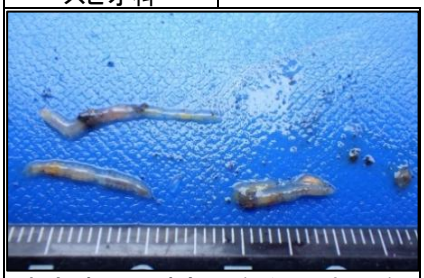
透明の薄く壊れやすい殻を持つ。貧酸素耐性があり、有機汚濁の指標種の一つとされている。

### ホンビノスガイ



成長すると殻長 10cm を超える。外来種で、貧酸素環境に耐性を持ち、現在では東京湾を代表する二枚貝となっている。底質が還元的な状態では硫化物によって殻が黒ずむ。

### スピオ科



東京湾の内湾部で多く見られる多毛類の一種。同科には貧酸素環境に耐性があるシノブハネエラスピオなどが含まれる。

### チロリ科



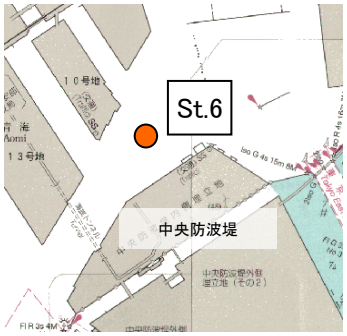
体長 10 cmほどになる。4 つの鋭い牙（顎）がついた吻（ふん）を『ちろり』と出して、干潟の小動物を捕らえる。

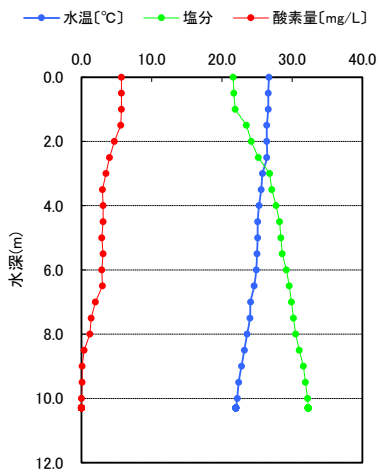
# 令和 8 年度　東京都内湾水生生物調査 8 月底生生物調査速報

## 東京都内湾水生生物調査

| 地点名 | St.6 | 調査年月日 | 令和 8 年 8 月 13 日　10:45～11:44 |
|---|---|---|---|

＜調査地点＞




＜底質状況、底生生物出現状況＞　※写真のスケール 1 目盛：1mm



東京港フェリーターミナルの正面で船上から採泥を行った。航路であるため、水深は 12.2m と深い。



ふるい上には貝殻片が残ったが全て死殻であった。

### 底質の状況



底質の性状はシルトで、クリーム状でとても柔らかく、強い硫化水素臭（腐卵臭）があった。

### ヒメカノコアサリ（死殻）



殻長 8mm ほど。内湾の砂泥底に生息する。殻は薄く、強い放射肋（ほうしゃろく）が特徴。

### コウロエンカワヒバリガイ（死殻）



東京湾では代表的な付着生物となっている外来種。水質汚濁や塩分の変化に強く、港湾の防波堤や転石等に高密度に付着する。

### チヨノハナガイ（死殻）



内湾の泥底に生息する。殻は非常に薄いため、もろく壊れやすい。貧酸素状態でも酸素がある期間に短期的に発生する。

### マメウラシマガイ（死殻）



水深 5 m 以深の泥底に生息する小型の巻貝。厚く光沢のある殻を持つ。

### クチベニデ（死殻）



1cm 前後の小型の二枚貝。三角形の厚い貝殻を持ち、左殻より右殻のほうが大きい。

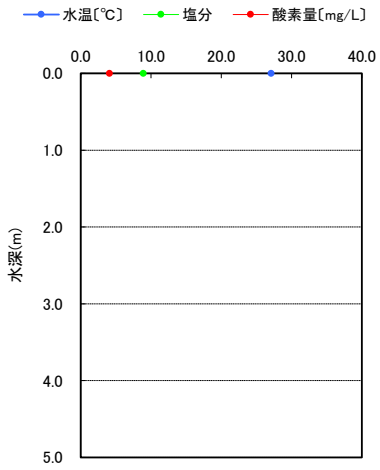
# 令和 8 年度　東京都内湾水生生物調査 8 月底生生物調査速報

## 東京都内湾水生生物調査

| 地点名 | 森ヶ崎の鼻 | 調査年月日 | 令和 8 年 8 月 13 日　12:03～13:04 |
|---|---|---|---|

＜調査地点＞




＜底質状況、底生生物出現状況＞　※写真のスケール 1 目盛：1mm



羽田空港の北側に残された干潟。干潮時でも周りは「海」に取り囲まれているため、岸から歩いて入ることはできない。

※調査直前にゲリラ豪雨が発生した。



ふるい上には貝殻片が残った。

### 底質の状況



底質は砂と粘土質の泥が混じっていいた。

### 調査の様子



多項目水質計による水質調査の様子。水面から海底までの水温、塩分、溶存酸素量を計測できる。

### ムロミスナウミナナフシ



体長 2cm ほどになる、フナムシに近い仲間。細長い円筒状の体をしており、白地に褐色の斑紋がある。干潟の表層部に巣穴を掘って生活する。

### アサリ(死殻)



卵型で殻長 4cm ほどになる。殻はよく膨らみ、殻の表面は光沢の弱い布目状となる。

### ホソウミニナ(死殻)



ウミニナ科の細長い円錐形の巻貝。殻長は3cm以内で蓋は丸い。干潟や岩礁の潮間帯でみられる。

### ダツ(死骸)　【調査対象外】



調査地点付近に全長 80 cm のダツの死骸が漂流していた。体は細長く、鋭く尖った両顎で小魚を捕食する。光に向けて突進するため、ライトや漁火に反応して海面から飛び出し、人に刺さることがある。

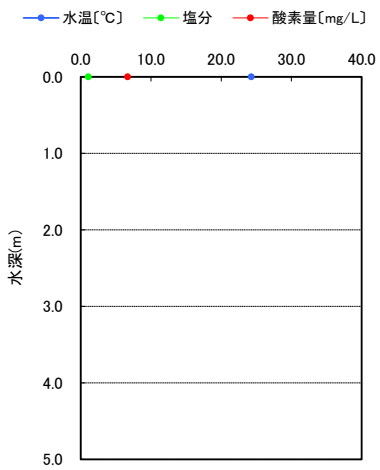
# 令和 8 年度　東京都内湾水生生物調査 8 月底生生物調査速報

## 東京都内湾水生生物調査

| 地点名 | 多摩川河口干潟 | 調査年月日 | 令和 8 年 8 月 13 日　13:05～14:25 |
|---|---|---|---|

**＜調査地点＞**




**＜底質状況、底生生物出現状況＞**　※写真のスケール 1 目盛：1mm



多摩川左岸側（東京都側）の海老取川河口付近の干潟で調査を行った。



貝殻片や植物片等の夾雑物が交じる。

### 底質の状況



底質はシルト混じりの砂であった。

### 採泥状況



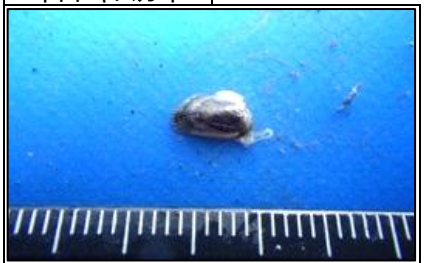
干潟に降り、小型の採泥器を用いて底泥を採取する。

### オキシジミ



干潟や河口域を含む浅い海域の砂泥底で見られる二枚貝。シジミと名が付くが、シジミ科ではなくアサリやハマグリと同じマルスダレガイ科に属する。

### ホトトギスガイ



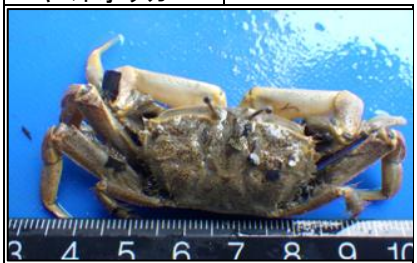
砂泥底に生息するムラサキイガイの仲間。富栄養な海域では互いに足糸を絡ませて集団で泥の表面を覆い、マット状になることが多い。

### ユウシオガイ



内湾の砂泥底の干潟に生息。殻長 1.5cm ほど。膨らみのある卵形、色彩は白から淡い黄色、桃色とさまざま。本種は東京湾では絶滅したとみられていたが、近年発見が相次いでいる。本調査では初確認。

### ヤマトオサガニ



干潟でよく見られるカニ。甲幅 4cm ほどで、柔らかく水分の多い泥干潟に斜めの穴を掘って巣穴を作る。巣穴の入り口には放射状の浅い溝ができる。

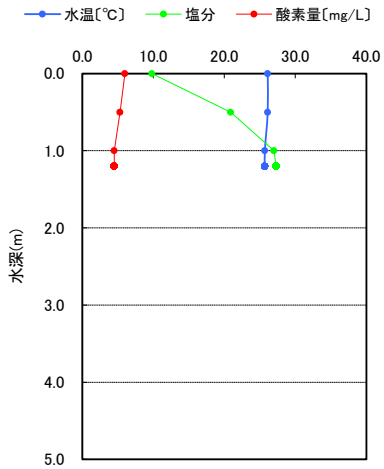
# 令和 8 年度　東京都内湾水生生物調査 8 月底生生物調査速報

## 東京都内湾水生生物調査

| 地点名 | St.31(多摩川河口) | 調査年月日 | 令和 8 年 8 月 13 日　14:46～15:36 |
|---|---|---|---|

＜調査地点＞




＜底質状況、底生生物出現状況＞　※写真のスケール 1 目盛：1mm



多摩川河口から 1.5km 付近の浅場で調査を行った。水深は 2.4m と深く、船上から採泥した。

※調査直前にゲリラ豪雨が発生した。



ふるいには貝殻片が残った。

### 底質の状況



底質はシルト混じりの砂であった。

### アラムシロ



殻高 15mm ほどになる。殻の表面には粗い粒状突起が並ぶ。干潟から水深 3m の砂泥底に生息する。魚や貝の死骸を食べる性質があり、「海の掃除屋」と呼ばれている。

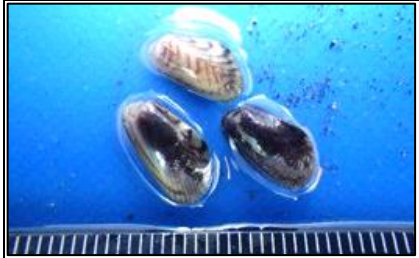
### アサリ



5月調査では本地点において 400 個体近く出現した。今回は個体数は減少したが、前回よりも大きな3～4cm サイズの個体が採集された。

※解説は森ヶ崎を参照。

### ホトトギスガイ



※解説は多摩川河口干潟を参照。

### マテガイ科




東京湾奥の干潟で普通に見られる二枚貝。円筒状の殻の前端から水管を、後端から足を伸ばし、砂底に縦穴を掘って潜る。成長すると殻長 10cm 以上になる。今回は水管付近の一部のみ採集された。

### ヒメシラトリ



殻長 3cm 程度になる。淡水の影響の強い内湾奥の砂底に深く潜って生息している。2 本に分かれた水管を伸ばして海底上の堆積物を吸い取って食べる。